

医療心理学 (Medical Psychology)					担当教員
					非常勤講師 谷口 麻起子
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	
人と文化	3年次 前期	講義 ロールプレイ	1.5単位	選択	

【概要】

医療現場では患者やその家族一人一人を大切にするという考え方が広まってきている。患者やその家族を本当の意味で支援していくためには、自分の立ち位置を認識し、相手がどのようなことを思っているかを想像し理解した上で、医療スタッフや相手と適切なコミュニケーションをとる必要がある。この授業では臨床心理学の観点から、専門家の立場、想像力を使うこと、傾聴の仕方、連携のあり方について講義する。また簡単なロールプレイも適宜取り入れて体験的な学びを深める予定である。

【授業の一般目標】

医療に携わる専門家として社会に貢献していくために必要な、臨床心理学的“態度”を身に着けることを目標とする。具体的には自分の意見・思いを相手に伝えること、相手の気持ちを想像すること、相手の話を聴くこと、相手に必要なことを自分の立ち位置の範囲で行えるようになることを目指す。

【準備学習(予習・復習)】

予習・復習とも授業中に課題を出します。1週あたり2時間程度の学修が必要です。

医療に関するトピックについて自分ならどうするかを考える、他者の気持ちを想像・理解する練習などを課題とします。具体的には授業中に指示します。

【学習項目・学生の到達目標】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標
1	「医療」における心理学とは何か	谷口	「医療」への心理学的アプローチは多々あるが、その中でも個性・主観性を大切に する臨床心理学の考え方を理解する。
2	「病む」ということについて考える	谷口	そもそも人が「病む」というのはどういう意味があるのだろうか。「病む」という体験がその人にどのようなことをもたらすのかについて理解する。
3	「治療する／される」ということについて考える	谷口	「治療する」体験、「治療される」体験というのはどのようなものなのか。そもそも人が「治る」というのはどういうことなのかについて理解する。
4	「死」について考える	谷口	人にとって「死」は避けられないことである。しかし医療というはある意味極力「死」を遠ざける行為でもある。医療人として「死」にどう向かい合うかを考える。
5	話を聴く（１）	谷口	コミュニケーションの一技法である、「話を聴く」とことはどのようなことが、話を聴く練習を通して理解する。
6	話を聴く（２）	谷口	「話を聴く（１）」に引き続き、「話を聴く」とことについて体験を通して理解を深める。
7	相手の気持ちを想像する（１）	谷口	他者の気持ちは、技法を駆使すれば理解できるものではなく、こちらの心を使うことも求められる。相手の気持ちを想像するということ、体験を通して理解する。
8	相手の気持ちを理解する（２）	谷口	「相手の気持ちを想像する（１）」に続き、非言語的コミュニケーションを通して相手の気持ちを想像する体験を行う。
9	意見と思いを伝える（１）	谷口	自分が考えていること、感じていることをどのように他者に伝えればよいのかについて、体験的に理解する。
10	意見と思いを伝える（２）	谷口	「意見と思いを伝える（１）」に続き、相手によりよく自分の考えを伝えるには、どのような伝え方をすればよいのかについて、体験的に理解する。
11	自分の立ち位置を知る	谷口	医療の専門家として働くにあたり、自分がどのような役割を果たせるのか、あるいは果たせないのかを理解する。
12	多職種連携について	谷口	医療現場では様々な専門家と協働することが求められる。なぜ連携が必要なのか、よりよい連携のために何が必要かということについて理解する。
13	医療人のメンタルヘルス	谷口	対人援助職の人はその責任の重さから燃え尽きてしまうことも多いため、健康に医療を担っていくために必要なメンタルヘルスの考え方について理解する。
14	自殺予防	谷口	患者も医療人も「自殺」とは無縁ではない。最悪の事態とも言える自殺を予防するために、どのような心構えが必要かを理解する。
15	総括・まとめ		

(書名)

(著者・編者)

(発行所)

教科書 特に指定しない。

参考書 適宜授業中に紹介します。

【成績評価方法・基準】

授業内課題（予習、復習含め）40%、学期末テスト60%

【評価のフィードバック】

講評を合格発表日に掲示にて公表する。

【オフィスアワーなど担当教員に対する質問等の方法】

オリエンテーション時に担当教員から連絡する。
